

毎日少量の飲酒なら虚血性脳卒中リスクが低減する可能性

少量から中程度の飲酒では脳卒中を予防する効果があるのか、また、脳卒中のタイプによってその関連性に違いがあるのかについては一致した見解が得られていない。本研究では、飲酒と脳卒中のタイプとの関連についてメタ分析を実施し検討した。

2016年9月までのPubMedを検索し、虚血性脳卒中、脳内出血、くも膜下出血に関する27件の前向き研究を対象にメタ分析を行った。その結果、少量から中程度の飲酒では虚血性脳卒中のリスクは低減し、多量から大量の飲酒では同リスクは増大した（相対リスクは1日1杯未満で0.90、1～2杯で0.92、2～4杯で1.08、4杯以上で1.14）。脳内出血およびくも膜下出血においては、少量から中程度の飲酒とリスクとの関連は認められなかった。多量～大量飲酒では、両出血性脳卒中のリスク増大と関連していた（相対リスクは1日4杯以上の大量飲酒で脳内出血リスクが1.67、くも膜下出血リスクが1.82）。

したがって、少量または中程度の飲酒では虚血性脳卒中のリスクが低減する可能性があるが、大量飲酒では虚血性脳卒中と出血性脳卒中の両リスクを増大させることが示された。

出典：Bio Med Central medicine. 2016; 14(1): 178